

製品名: GPRC6A ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11716**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	105kDa

抗原情報

遺伝子名	GPRC6A
別名	GPRC6A; G-protein coupled receptor family C group 6 member A; hGPRC6A; G-protein coupled receptor GPCR33; hGPCR33
遺伝子 ID	222545.0
SwissProt ID	Q5T6X5
免疫原	抗血清はヒト GPRC6A 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 471-520

背景

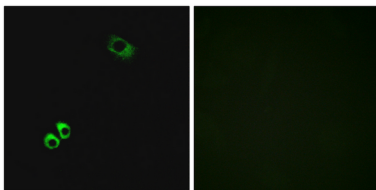
GPRC6A などの G タンパク質共役受容体 (GPCR) スーパーファミリーのファミリー C のメンバーは、膜内 7 回膜貫通ループ領域に

連結された進化的に保存されたアミノ酸感知モチーフを特徴とする。GPCRC6Aを含むGPCRファミリーCのいくつかのメンバーは、長いN末端ドメインも有する (Piらによる要約、2005年[PubMed 16199532])。[OMIM提供、2010年11月]機能: アミノ酸と細胞外カルシウムイオン濃度の両方によって活性化される受容体。この受容体の活性は、ホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャーシステムを活性化するGタンパク質によって媒介される。カルシウムイオンの細胞外濃度の変化を感知するため、骨芽細胞における細胞外カルシウム感知応答を媒介する可能性があることが示唆されている。オステオカリンは、カルシウム存在下でその活性を刺激します。CASRよりもカルシウムに対する親和性が低いです。また、アミノ酸の受容体としても機能し、L-リジン、L-アルギニン、L-オルニチンなどの塩基性アミノ酸を優先的に認識します。アミノ酸に対する親和性は、尿素回路の調節成分として機能する可能性を示唆しています。PTM: N-グリコシル化。類似性: Gタンパク質共役受容体3ファミリーに属します。サブユニット: ホモ二量体;ジスルフィド結合。組織特異性: 広く発現しています。脳、骨格筋、精巣、骨、頭蓋冠、骨芽細胞、白血球で高発現しています。肝臓、心臓、腎臓、脾臓で中程度の発現が見られます。肺、膵臓、胎盤、卵巣で低レベルの発現が見られます。胸腺、前立腺、小腸、舌、結腸では発現していません。腎臓ではアイソフォーム1とアイソフォーム2は同じレベルで発現しますが、他の組織ではアイソフォーム2は低レベルで発現します。

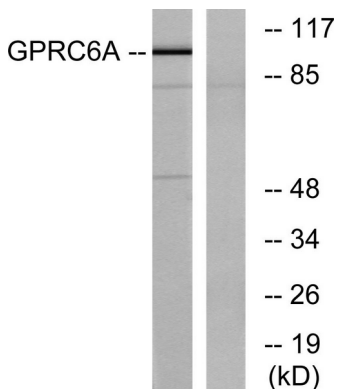
研究分野

-

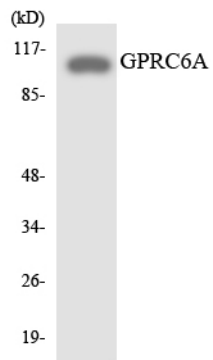
画像データ



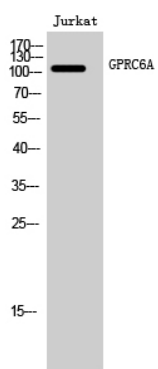
GPCRC6A抗体を用いたMCF7細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



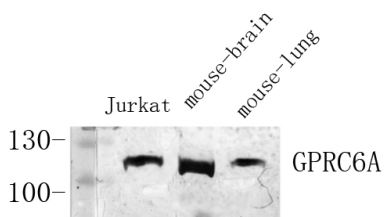
GPCRC6A抗体を用いたJurkat細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



GPRC6A 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



GPRC6A ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた Jurkat 細胞のウェスタンブロット解析



1:1000 に希釈した抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。